

「教育長の部屋」を長い間休止していました。理由は？と問われると、大した理由があるわけでもなく、少し充電させていただいていたという申し訳ない始末です。

そんな中、有難いことに、教育長の部屋を楽しみにしている方もいらっしゃるって、職を辞したのではないかという心配の声をいただいたほどです。私としては、ますます、自分の職としての至らなさを痛感したところです。

実は、私は、昨年度末で、職としての3年の任期が一旦終了いたしました。が、継続して、これから3年間も職を務めることとなりました。

ここで、あらためて、「教育長の部屋」を再開させていただきますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、第68号からです。

《教育長メッセージ 第68号》

『社会から取り残される』

私は、学校が、このままでは社会から取り残されるのではないかと危惧しています。

衝撃的な書き出しですが、なぜそう思うかを説明します。

私は、これまで、小中学校の教職員として、教育委員会事務局職員として、40年間ほど教育に携わってきました。

教育、特に学校教育には、これまでの歴史の反省から、その時々政治や社会に左右されることなく、子どもの人間としてのよりよき成長のために、あえて、政治や社会から一定の距離を置くことを常に心がけて進められてきました。

そのことは、子どもの命や子どもの人権を守るために、これからも継続して行わなければならないことです。

一方、そのような中で、学校教育が学校内で閉じられ、限られた空間で教育が完結する傾向が強くなってきたと私は感じています。

そして、近年、教室や学校という閉じられがちな空間でのみ教育活動が展開されることでのいくつかの教育課題が指摘されるようになってきました。

実際に、子どもたちは地域の一員として社会生活をしながら学校に通います。また、学校を卒業すれば社会の一員として社会生活を営みます。

しかしながら、一面的な見方ではありますが、学校で身につけた能力が、

ある意味、社会生活での汎用性につながらず、たとえば、すべてがそうだとはいりませんが、学校の成績がよくても、社会生活では必ずしもそれが生かされず、よりよい社会生活を営むことには直接的にはつながらないことがあるということを実感するのです。

そのような意味で、私は、学校は、これまで以上に、学校教育、そこで行われる学校教育活動を、社会とつながるものにしていかなければならぬと思っています。

具体的には、これまでも進められてきていますが、子どもたちが身につけるべき能力の視点から、地域学習・郷土学習の場面、地域教材・地域人材の活用をさらに広げる必要があると考えています。

私としては、今後3年間の任期の中で、このことを重点に学校と連携して、海老名市の教育の充実に取り組んでいきたいと考えているところです。

また、海老名市では、今年度から、新たな学校体制として、小中学校全校で「コミュニティ・スクール」の取組を始めます。

保護者や地域の代表者が、学校運営協議会を組織し、学校教育計画の承認やその学校の子どもの問題等を話し合い、学校運営に参画することによって、地域とともにある学校、地域に愛される学校を作り上げることで、このままでは学校が、社会から取り残されるのではないかという私の懸念が払拭されると考えています。

私の新たな3年間の任期の中での重点的な取組については、上記のことも含めて、「第2期 えびなっ子しあわせプラン」として、次回の「教育長の部屋」で述べてみたいと思います。

あらためて、今後ともよろしく願いいたします。

次回は、『第2期えびなっ子しあわせプラン』について、説明します。

